

むかし  
昔はみんなでいっしょに  
生きていた



写真提供：高井正二郎さん

コウノトリは、今ではときどきシベリアから日本へ迷ってやってくるだけの鳥だ。しかし、かつては日本で子育てをし、あちこちで普通に見られた鳥だった。

コウノトリは、カエルや魚などが大好きで、木の上で休んだり、子育てをする。ところが開発が進み、川や沼や池、林、といったビオトープがなくなったり、農薬のえいきょうなどでエサとなる動物が少なくなったりしたため、日本で生まれ育った、野生のコウノトリは絶滅してしまった。

今、コウノトリをめずらしい鳥にしてしまった反省から、

この鳥を守り、ふやそうという取り組みが行われている。けれども、上の写真の風景のように、みんなでいっしょに生きられるようにするためには、コウノトリが必要とするビオトープをとりもどすことが、とても大切なんだ。



コウノトリが生きていくのに必要なビオトープは？

エサとなる魚、カエル、ネズミなどがたくさんいる田んぼなどの湿地や川、池、沼

逃げろー!!



草地在って助かった



コウノトリが生きていけるビオトープをとり戻さないとね

